



CONTENTS

特集 P2・3

小学生向け福祉の仕事魅力発信イベント『ふくしパーク』！

P4・5 TOPICS

- ども食堂ネットワークぐんま 設立5周年にあたって
- 社会福祉法人・施設等連絡会の取組

P6 まちの社協レポート～神流町社会福祉協議会～ 県社協会員紹介

P7

- 群馬県障害者芸術文化活動支援センター開設記念シンポジウム

P8

INFORMATION

- 社会福祉施設の「BCP（事業継続計画）策定」に向けて

ホームページは
下記からアクセス
してください。



群馬県福祉人材センター小学生向け福祉の仕事魅力発信イベント!

ぶくしパーク開催しました!



参加者の声

体験と目からの情報で、説明が入りやすく子どもにもわかりやすかった!



身近な仕事として感じる事ができた



ゲーム形式でとても楽しかった!



福祉人材や、福祉の養成校に進学する学生が減少する中、未来の福祉人材を育てる取り組みとして、小学生向け福祉の仕事魅力発信イベント『ぶくしパーク』を夏休み中の8月5日(土)イオンモール太田にて開催しました。

会場は「じゃがいぶくし」、「かいごぶくし」、「ほいくし」の3つのブースに分かれ、それぞれのブースで、謎解きやクイズ、製作などの遊びを通して楽しく福祉の仕事を学ぶことができるよう準備しました。小さいお子様向けに、座って遊べるコーナーも設置。プラスポーツのポツチャ、町の地図の中から「じゃがいぶくし」を探すもの、紙コップを使った手作りクラッカーなどが子どもたちに大人気!子どもと保護者合わせて約170名の方にご参加いただくことができました。

体験したポイント数に応じて、お菓子と交換ができるため、どれにしようかな?と悩む子どもたちの姿も。ボランティアスタッフとして参加してくれた高崎健康福祉大学の学生たちと楽しく取り組む子どもたちの元気な声がたくさん聞こえていました。

謎解きやクイズで楽しく福祉を学ぶ



福祉を学ぶ学生から子どもたちへ

群馬県福祉人材センター

センターについて・利用時間

利用時間/
月～金 9時～17時
土・日・祝はお休みです。
(受付は16時45分まで)



※オンライン相談も可能。
相談の予約はお電話または
WEBでも受け付けています。



相談に関する予約・お問い合わせはこちら

TEL.027-255-6600



@266tkzsy

FUKUSHI-JOB SEARCH
福祉のお仕事

福祉のお仕事



製作段階では控えめだった学生たちも、当日子どもたちと、腰を低くし、目線を合わせてかかわる姿は、非常にいきいきとしており、新しい一面を見ることができました!

学生のみなさんのこれからの福祉分野での活躍に期待が膨らみます。また、夏休みの二日の思い出が、いつか子どもたちが福祉の仕事を目指すきっかけとなってくれば、こんなに嬉しいことはありません。



大学での製作の様子

今回のイベントは、高崎健康福祉大学健康福祉学部社会福祉学科の3年生、4年生計12名の学生と、企画の段階からコラボしました。普段ソーシャルワークを学ぶ学生たちが、どうしたら小学生が興味をもつてソーシャルワークに触れることができるか、意見を出し合い、一緒に作業に取り組んでくれました。

今後のイベントについて

①北毛地区福祉の仕事フェア

10月19日(木) 13:00～15:00
渋川市民会館



申込
フォームは
こちら

②福祉の仕事ガイダンス2023 保育編・児童福祉編

10月26日(木)

- ①保育現場における『困った子』の支援 10:30～12:00
- ②『しせつ』における子どもの支援 13:00～14:30

群馬県社会福祉総合センター601研修室

講師：京都橘大学 総合心理学部 総合心理学科 特任教授 宮井研治 氏



申込
フォームは
こちら

③介護の日 福祉の仕事フェア ～『これからの介護』介護技術やICTでどう変わるのか～

11月6日(月) 13:00～16:00

講師：生活とリハビリ研究所 下山名月 氏

講演会の他、アロマやカラー診断コーナー、福祉用具展示会、就職相談会等を予定しております。詳細についてはお電話でお問い合わせください。

こども食堂ネットワークぐんま 設立5周年にあたって



ロゴマークが完成！

“それぞれのこども食堂ではこどもの食を守り、そのまわりでは様々な形でその活動を守っているよ！”
という意味が込められています。

こども食堂ネットワークぐんまの目印として、いろいろな場面で活用していく予定です。



こども食堂
ネットワークぐんま
のぼり旗

近年、こども食堂という言葉を目にする機会が増えたかもしれません。
こども食堂はこどもの居場所だけではなく、地域の居場所として注目されており、食事提供・孤食の解消・食育・地域交流の場づくりと、さまざまな意味合いを持ち、各団体が創意工夫をしながら運営を行っています。
今年7月には、群馬県域のこども食堂のネットワークである「こども食堂ネットワークぐんま」が5周年を迎えました。設立当時数団体であったのが、今では50以上の団体が所属する大きなつながりの輪となりました。また団体だけではなく、「こども食堂のために何かできないか？」と、寄附・寄贈のご相談も増えています。いろいろな人がこども食堂をきっかけに地域のことに関心を持ち、こども達のため、地域のために出来ることを考えてくれているのではないのでしょうか。
今年11月18日(土)には5周年記念事業として公開ワークショップを開催します。興味のある方は随時HPをご覧ください。

これからも、こども食堂ネットワークぐんまをどうぞよろしく願っています。

こども食堂ネットワークぐんま

(事務局：群馬県社会福祉協議会 地域福祉課)

寄附・寄贈・入会・ボランティア等
お問い合わせはこちら！

TEL:027-255-6111

MAIL: kodomo-snet@g-shakyo.or.jp

ホームページに
最新の加入団体公開中！

こども食堂 ぐんま



こども食堂ネットワークぐんま 5周年記念事業のお知らせ

日時：令和5年11月18日(土) 13:30～16:00

会場：群馬建設会館

◎こども食堂の運営者が、自分たちががんばってきたことを確認し共有できる、またこども食堂で起きていることを知り積極的に応援しよう！やってみよう！という気持ちになるようなワークショップを企画しています。

社会福祉法人・施設等連絡会の取組

● 社会福祉法人・施設等連絡会とは

市町村域において、高齢・障害・児童等の種別を越えて社会福祉法人・施設が連携し、市町村社協を中心としたネットワークを構築するものです。災害時の相互応援体制の構築や共同しての研修実施、市町村社協と協働して地域のような福祉課題の解決等に取り組みます。

連絡会の取り組み例

- 総合相談、生活困窮者支援、
- 災害支援、災害時相互応援、
- 福祉教育、就労支援、人材確保、
- 職員研修、配食サービス、
- 外出支援、電球交換等の生活支援 等々



● 連絡会を実施することで…

● 包括的支援体制の一翼を担う
ネットワークを活かして多様な福祉ニーズや複合化・複雑化した課題等に対応することが可能となり、市町村における包括的支援体制において、その一翼を担うことが期待されています。

● 社会福祉法人・施設の支援力の向上へ

それぞれの持つ専門性の認識や課題の共有等により、種別を越えた福祉ニーズへの連携した取り組みや災害時の相互応援体制の構築等、社会福祉法人・施設の支援力の向上につながることが期待されます。

PICK UP ～県内の取り組みをピックアップ～

● 県内の連絡会設置状況（令和5年9月現在）

令和5年9月現在、13市町村1地区で連絡会が設置されています。
前橋市、高崎市乗附地区、桐生市、太田市（高齢者関係）、沼田市、館林市、渋川市、藤岡市、富岡市、下仁田町、中之条町、川場村、昭和村、みなかみ町

前橋市社会福祉法人連絡会

- 公式Twitter (X) を開設
@maefukuren
- 連絡会の活動や会員法人の情報を発信中！
- 施設利用ガイドの作成
地域に会員法人の情報を知ってもらえるガイドを作成中（令和5年度中に公開予定）
- 前橋社協HP内で取組を発信
<https://www.mae-shakyo.or.jp/calendar/>



富岡市社会福祉法人連絡会

- 災害時の相互応援や地域貢献をテーマにネットワーク構築を推進。
- 「各法人（施設）が保有する備品・備蓄品について」施設の備蓄品をリストアップし、整備状況や整備してよかったもの、実際に貸借したい備品などを共有（R4）
- 「福祉避難所の取り組みについて」行政説明・福祉避難所指定施設の事例紹介をもとに検討（R5）



みなかみ町社会福祉法人等連絡会

- 社会福祉法人以外にも医療法人やNPO法人、営利法人も構成メンバーに加えて連絡会を設置。
- 合同企業説明会を実施し町の福祉人材確保に取り組んでいます。
- みなかみ町内の医療介護福祉事業合同企業説明会（R4 10月）
- 高校生向け合同企業説明会（R5 3月・8月）



まちの 社協 レポート



各市町村社協の
取り組み、活動を
レポートします

「幸運」「健康」「長寿」
いつまでも元気でいられるように
願いを込めて

神流町社会福祉協議会では、令和4年
度から認知症予防教室事業「けやきく
らぶ」を開始しました。

家に閉じこもりがちな高齢者の方に対
し、脳トレや健康体操を行うことで認知
症予防を図ると共に、認知症を早期発見
し医療につなげることを目標に事業を開
始しました。

地域との連携を図る中で、「認知症と診
断されて介護認定を受けたが、まだ介護
サービスは必要としていない方」や「介
護認定を受けたことで社協事業に参加で
きなくなった方」など、制度の狭間にい
る方に対する受け皿として紹介されるこ
とも増えてきました。参加者の口コミに
より新しい参加者の方も少しずつ増えて
います。

広い受け皿として、町内に住む高齢者
の方が笑顔になれる活動を行っていき
たいと思います。

職員からひと言

けやきくらぶでは、身体
を使った脳トレを取り入れる
ことで、認知症予防だけ
でなく、フレイル予防も目指
しています。終わる頃には皆
さん10歳は若返って見え
ますね。



健康体操で頭
も身体もリフ
レッシュ

社会福祉法人 神流町社会福祉協議会

群馬県多野郡神流町大字神ヶ
原430番地-1

TEL 0274-58-2781

FAX 0274-58-2791

神流町社会福祉協議会
ホームページ



色文字カルタ
で脳を活性化



県社協会員紹介

助け合い、支え合う、県社協の仲間を紹介します

群馬県精神障害者家族会連合会（群馬つつじ会）

家族会の活動の3本柱

（仲間と癒しあい）（医療福祉を学ぶ）（制度の遅れに声を上げる）

精神疾患を抱えた患者の家族の集まりで、会員数約270人、県内13の単
会があります。

コロナを機に、電話相談（水曜・10時～15時）を始め、家族会への入
会や、面談に繋がる方もいて手応えを感じております。

また、昨年より全国組織のみんなねっとで実績のある「家族の家族によ
る学習会」を始めました。専門職でない、同じ立場で、同じ経験をしてい
る家族が参加者と担当者となり、1日3時間を5回行い、大変好評です。
会員外でも困っている方に是非お勧めです。

令和5年度は、7月の研修会で「聞き・考え・実行する」をテーマに福
祉計画や体験談から学び、11月には「今出来ることを考えるパート4」を
予定し、親亡きあと、8050問題に取り組んでおります。

※詳しくは事務局までお問い合わせください。 ☎027-289-9647



「家族の家族による学習会」の様子



令和4年度厚生労働大臣表彰の受賞

群馬県障害者芸術文化活動支援センター開設記念シンポジウム開催！

県では、障害者の芸術文化活動の普及を支援するため、今年4月に「群馬県障害者芸術文化活動支援センター」を開設。これを記念して、8月19日（土）、スマーク伊勢崎を会場に開設記念シンポジウムが開催されました。



来場者でにぎわうアート作品展示

■盛り上がるステージイベント
当日は、ラジオパーソナリティ・内藤聡氏の進行のもと、屋外ステージでは渡良瀬特別支援学校・つゆ草和太鼓愛好会による迫力満点の和太鼓演奏が披露され、屋内ステージではダウン症の天才書家・金澤翔子氏の席上揮毫、翔子さんの母で書家の金澤康子氏のトークショー、「障害者芸術文化の可能性」をテーマとしたパネルディスカッションなど、数多くのステージイベントが催されて、多くの来場者でにぎわいました。

■パネルディスカッションや作品展示も盛況
パネルディスカッションでは、パネリストとして、NPO法人エイブル・アート・ジャパン代表理事の柴崎由美子氏と（一社）シブヤフォント共同代表の磯村歩氏、群馬県障害者芸術文化活動支援センターからNPO法人工房あかね代表の小柏桂子氏とNPO法人あめんぼ代表の野村裕子氏が登壇しました。

また、1階の「はるなプラザ」と2階の「パークストリート」では、県内で活動する団体や県内特別支援学校の作品展示が行われ、スタンプリーも催されました。素晴らしいアート作品の数々に、大勢の買い物客が足を止めて見入っていました。



国内外で目覚ましい活躍をする金澤翔子氏



来場者の目をくぎ付けにする金澤翔子氏の力強い席上揮毫

書家・金澤翔子氏

伊勢神宮や東大寺など日本を代表する神社仏閣で奉納揮毫や個展を開催。ローマ教皇庁に大作「祈」を寄贈。国外ではニューヨーク、チェコ、シンガポール、ブラジル等で個展を開催。年間約10万人以上が個展等に訪れる。



共生社会実現に向けた代表作「共に生きる」

INFORMATION

社会福祉施設の「BCP（事業継続計画）策定」に向けて

気候変動の中、福祉施設に求められる対策として

令和3年度の介護報酬改定、障害福祉サービス等報酬改定においても、3年間の経過措置を設けて、「BCP（事業継続計画）」の策定が全事業者に義務付けられました。

社会福祉施設が被災した場合、利用者の避難や職員の応援等が必要になりますが、近年の風水害や土砂災害による被害を鑑みた時に、「避難確保計画」の策定が義務付けられている事業所の避難先をどのように確保するか、在宅でのサービス利用者の安否確認等、利用者の安全配慮義務の観点から急務の取り組みとなっています。

策定に向けたセミナーの開催

県社協では、BCP策定に関するセミナーを、①基礎編、②入所施設編、③通所施設編、④計画相談編と4回に分け、介護分野、障害分野のそれぞれを対象にセミナーを開催し、平成30年度から本県の社会福祉法人・福祉施設のモデルBCP策定でアドバイザーとして協力いただいている佛教大学の後藤至功先生に講師として尽力いただきました。

講義の中で、①安全ゾーンの確保、②電力の確保、③職員の情報共有の仕組み、④地域との連携の4点を外さずに策定を進めて欲しいことをポイントとしてお伝えいただきました。



策定研修の様子

BCPに求められるもの

災害により被災した社会福祉施設において、地域を支える社会福祉法人・福祉施設として、福祉避難所の開設運営を含め、サービスをどのように再開につなげていくか等、事前に方向性を整備しておく必要性からもBCP策定は大変重要となっています。

そのため、BCPは単なる計画ではなく、利用者や家族の信用を維持し、地域社会にも安心をもたらすものであり、福祉施設の価値の維持・向上につながる実効性の高いものであることが求められています。

福祉ぐんま

編集／発行

社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会

*福祉ぐんまは、群馬県社協ホームページでもご覧になれます。

〒371-8525（専用郵便番号）

群馬県前橋市新前橋町13-12

群馬県社会福祉総合センター内

TEL 027-255-6033（代表）

FAX 027-255-6173

URL <https://www.g-shakyo.or.jp/>

発行日 令和5年10月1日

あしがき

暑かった夏も終わり、朝晩は過ごしやすくなりましたが、日中との気温差もあって体調を崩さないよう気をつけたいものです。

この季節と言えば、○○の秋とよく耳にしますが、イベントや催し物が多く開催される季節でもあります。

町内会の行事など、実施できていますか？地域の皆さんで話し合い、内容を変更して実施した。やむを得ず中止または廃止とした恒例行事もあるかと思えます。

住民の皆さんが話し合う場を作る。地域の課題は地域で考える。何かあればお互いさまの精神で。そんな住民主体の地域づくりや町づくりを社会福祉協議会も一緒に考えます。

編集委員 甘楽町社会福祉協議会
山田 剛